

# 第1回 臨床研修医のための腎臓セミナー

卒前・卒後教育委員会委員長

今井 裕一

## はじめに

昨今の医学教育改革のうねりには凄まじいものがある。十分な討論がなされないまま、全体として流されている、あるいは呑み込まれている感は否めない。卒前教育は、従来の講義主体型から問題解決型のチュートリアル教育、さらに知識量を限定したコア・カリキュラムとなっている。また、客観的臨床技能試験(Objective Structured Clinical Examination : OSCE)と Computer-based Test (CBT)が共用試験として医学部4年生を対象に実施されようとしている。卒後教育に関しては、平成16年から初期研修の必修化が実施されている。

日本腎臓学会としては、これらの改革に積極的に対応し、将来の腎臓専門医を有機的に育成することが重要な課題であるという認識のもとに、専門医制度委員会のなかに、教育ワーキンググループを創設した。その後、卒前・卒後教育委員会に名称が変更された。この委員会は、これまで東部部会、西部部会で主に学生を対象とした腎臓セミナーを開催してきたが、2005年から初期研修医を対象とした腎臓セミナーを企画した。8月7日に「第1回 臨床研修医のための腎臓セミナー」を開催したので、その内容と今後の予定について報告する。

## 準備

1月下旬に数名の委員が集まり、開催場所、時間、内容を討議した。開催地としていくつかの候補があがったが、最終的には東京・霞ヶ関ビル内東海大学校友会館になった。その打ち合わせ会の後は、委員会メンバー内のメーリングリストで何度か話しプログラムを作成した。最終的に、Japan Kidney

Week 期間中の6月25日に委員会を開催して最終決定した。セミナー担当者は、パワーポイントスライドの配布資料を作成し、開催の数日前にようやく全体のシラバスが完成した。また、グループ討論の際のタスクフォースを若手の腎臓専門医に依頼し、12名がボランティアで協力してくれることになった。

## セミナー当日：8月7日(日曜日)

朝、8時半から受付を開始した。事前登録形式で募集した85名の研修医が集まってきた。9時に下條文武理事長の挨拶でスタートした。

その後、腎臓の構造と機能について、筆者と吉田篤博先生が講義形式で講演を行った。筆者は、腎臓は前腎、中腎、後腎と変化しながら外部環境に適応してきたこと、それと関連してクジラの多葉腎のスライドを提示した。吉田先生は、腎臓の機能について、Na代謝、K代謝などを概説した後、ヤノマモインディオの話をしてくれた。引き続いて、山縣邦弘先生と西 慎一先生が急性腎不全と慢性腎不全の症例を提示して講演してくれた。いくつかの質問があった(図a)。コーヒブレイクの後に、日本学術会議議長 黒川 清先生の「腎臓学は、こんなに面白い！」の対話式講演会があった。いつもにもまして迫力があり、若い研修医たちも吸い込まれていた(図b)。話は尽きなかったが、その後立食パーティで歓談した(図c)。午後は11のグループに分けて討論を行った(図d)。テーマは、南学正臣先生の低カリウム血症と高カリウム血症の症例と須藤 博先生の低ナトリウム血症の症例であった。また、安田隆先生の腎炎の症例提示の後にグループ討論をし、



a	b
c	d

筆者が検査と治療の関係について概説した。最後に、内科学会と腎臓学会の研修についてオリエンテーションを行い、午後4時には終了した。

## 評価と反省点

終了時点でアンケートをとったが、80~90%の研修医は満足していた。

「大変勉強になりました。全国の研修医と論議ができて、刺激になりました。」「いろいろな大学、病院、専門ドクターのお話を聞いて刺激になり、面白かったです。」「久しぶりに臨床の話が聞いて頭の中の古い知識が整理できて楽しかったです。」「case studyなど非常にactiveで面白い会でした。」「今後も同じような会があれば参加させていただきたいと思います。」「黒川先生のお話も楽しく聞かせていただきました。」「腎臓病の診かたの勉強になりました。腎が悪そうと思ってもどのようにアプローチすればいいのかわからなかったのですが、明日からは少し自信をもって診療できるようになると思います。」「今後も是非参加させていただきたいです。臨床で

困っていることがたくさん解決できました。」「腎臓というのと、とっつきにくいという印象がありましたが、論理的に考えていくという腎臓のおもしろさを知ることができ大変有意義なセミナーでした。」

以上のような評価が多かったことで、スタッフとして胸をなでおろしている。

午後のグループ討論に関しては、十分考える時間がなかったという意見が多かった。日本式教育では討論にあまり馴染んでいないために、学習する側もチューター側もやや戸惑いがあったようだ。何をどの程度教えて、何を考えてもらうか、教育方法についても、今後とも会員の皆さんと一緒に勉強する必要性を感じた。

## 今後の予定

2005年11月19日(土)、20日(日)に沖縄で開催することが決定している。これは沖縄在住の研修医に参加しやすいように設定したのであるが、沖縄以外に、本土からの研修医の参加も期待している。また、今回と同様に若手の腎臓専門医レベルの方のタ

スクフォースも募集する(詳細については、腎臓学会ホームページに掲載中)。

その他、福島医科大学の渡辺 毅先生(日本腎臓学会幹事)の企画に、卒前・卒後教育委員会が協力する形で11月3日に福島で開催予定になっている。

さらに、来年の夏季セミナーは、西札幌病院の河田哲也先生(卒前・卒後教育委員会委員)が中心になり、旭川医科大学、札幌医科大学、北海道大学の協力で札幌で開催する予定である。

このほか、例年通りに東部部会、西部部会では学生を対象とした腎臓セミナーも企画している。

## お願い

現在、卒前・卒後教育委員会のメンバーは38名であるが、今後の活動を考えると、さらに充実させる必要がある。セミナーの企画を行う人はもちろんのこと、今回のようにタスクフォースとしてご協力いただける若い先生の参加を切にお願いしたい。自

薦・他薦でもかまわないので、若い人を育てることに関心のある方は、事務局([office@jsn.or.jp](mailto:office@jsn.or.jp))にご連絡ください。

## おわりに

セミナー当日に参加していただいた、下條文武理事長、黒川 清先生、委員の先生方(遠藤正之、河田哲也、篠田俊雄、須藤 博、南学正臣、西 慎一、平和伸仁、宮崎正信、安田 隆、山縣邦弘、吉田篤博)、腎臓学会幹事の渡辺 毅先生、井関邦敏先生、タスクフォースとしてご協力いただいた先生方(石川英二、大石哲也、小原まみ子、金城永幸、北川 渡、窪島真吾、菅 憲広、田中礼佳、辻井知美、仁科 良、八田和大、古宮俊幸)、事務局長西澤 勇様、教育担当事務 西村明子様、メディカル東友の荒牧駿太様、牧嶋繁裕様、多くの皆様のご協力によって開催できました。深く感謝いたします。